

平成27年度 学校評価書（誠英高等学校）

| | |
|---------|---|
| 学 校 目 標 | 一人ひとりを大切にし、確かな学力と柔軟な精神力を身につけ、たくましい社会を生き抜く力を育む。 |
| 重 点 目 標 | ①国語力の重視と基礎学力の不足を補う工夫と、各科に応じたシラバスの作成と評価法の吟味を行う。 ②建学精神を伝授し基本的な生活習慣を確立させる。また、教職員との信頼関係を構築し、生徒相互間の好ましい人間関係を育成する。 ③幅広いキャリア教育の展開と学年に応じた段階的指導を行う。 ④事務業務の簡素化に取り組む。 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | |
|-------------|--|--|--|---|
| 目 標 | | | 評 価 | |
| 番号 | 重点目標 | 具体的方策 | 取組の成果 | 次年度への課題と改善 |
| ① | 国語力を重視し基礎学力の不足を補う工夫と、各科に応じたシラバスの作成・評価法の吟味を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字テストの効果的利用と常用漢字の読み書きの慣用指導。 静思抄を通じた正しい言葉と文字の慣用指導。 シラバスの作成と効果的な活用及び内容の見直しを行う。 指導過程における適切な PDCA サイクルの確立。 適切な授業評価の実施と評価の効果的活用の実践。 | 静思抄を活用し、正しい言葉で文章表現ができることを目標とし、各クラスとも昨年度以上に取り組むことができた。内容は、学年での統一テーマや担任が設定したテーマで記入した。生徒とのコミュニケーションを図り、いじめ、問題行動等の早期発見につなげることもできた。また、漢字学習の成果も見ることができた。 生徒による1週間ごとの自己評価も行い、週目標・反省を繰り返すし、目標を持って学校生活を送ることができた。 シラバスを作成するとともに、進捗表を詳細に記入し、科・コースを意識した教科指導に取り組むことができた。 | 朝学はクラスによりばらつきがあるので、生徒朝礼までの時間を有効に使い、授業にスムーズに入れるようにする取り組みが必要である。 |
| ② | 建学精神を伝授し基本的な生活習慣を確立させる。また、教職員との信頼関係を構築し、生徒相互間の好ましい人間関係を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業、学校行事等を通じた校訓の理念と精神の指導を徹底する。 さわやかな挨拶、身だしなみ、礼法の指導の徹底を図る。 正しい言葉遣い、状況・立場に応じた行動と敬語の指導。 いじめの防止、早期発見、迅速対応、適切な措置を徹底する。 生徒間トラブルの防止、思いやりの心と協調性を育成する。 保護者・家庭との連携強化を図る。 部活動への積極的な参加・加入を呼びかける。 規律・マナーの習得を目指した指導の徹底を図る。 | 月頭訓話やLHRで建学の精神についての講話を行うとともに、創立90周年記念式典を挙げることで本校に対する帰属意識を高めることができた。 校門指導（朝だけから夕も実施）・週番活動・月一回の服装頭髪指導は学年クラスの枠を越え、挨拶・身だしなみ・礼法指導を行うことができた。 服装頭髪指導については期限を切り再検査を実施し徹底を図ることが定着した。学年・クラス間での情報交換だけでなく保護者とも連携を図りいじめ防止に努めた。新入生の部活動への入部状況は在籍の半数以上の生徒が入部し熱心な顧問の指導により様々な実績を残した。 | 服装頭髪指導で注意を受ける生徒はいつも限られているので、その生徒たちに対する指導方法を再検討する必要がある。 1学期の早い時期の個人面談の完了を徹底する。今まで以上に、家庭との連携を強化する。 |
| ③ | 幅広いキャリア教育の展開と学年に応じた段階的指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の意義と必要性の認識徹底を図る。 年次指導による系統的・段階的な指導体制を実践する。 | 各学年に応じた進路ガイダンスを行い、生徒自らの適性を考えさせ、将来の自分の姿を設定させることができた。保護者に対する進路説明会も今年度は2年生にも範囲を広げ実施した。 | 進路に関する保護者対象の説明会を継続する。 |
| ④ | 事務業務の簡素化に取り組む。 | 事務的提出書類等のデジタル化を図る。 | 情報や連絡の徹底を図る方法として、紙面とHP・デスクネットのあらゆる方法で取り組むことが日常的に行われるようになった。 | 簡素化よりも効率化を図る。 |